常磐毎日
発行所 平市田町75番地 常磐毎日新聞社 電話(代表)2104番 2105番

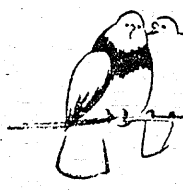
御婚礼家具調度品
家具のデパート
特仕大奉売中
伊東家具店
平市新川町バス営業所前

「今晩」北よりの風、晴れのち時々曇り
「明日」北東ないし東よりの風始め時々曇ったり
「海上」今晩大体おだやか 明日多少風波ある。

二区は四強の激突
30日公示、いよいよ選挙
衆院解散

衆議院は予想通り昨夜九時三十一分解散された。来る三十日公示、来月三十日（日曜日）の投票日に向っていよいよ激しい選挙戦が展開される。安保論争以来この日ある事を予想していずれも活発な選挙事前運動を続けて来ただけに公示と同時に高面は一挙に終盤戦に突入する状勢にある。浜通り三区は斎藤邦吉、木村守江、武藤武雄の三現役に前回惜しくも敗れた松井政吉氏の四強の争いに限定され、他に立候補があっても大勢に変りはないものとみられるところから、もっぱらこの四強の動きに衆目が集っている。とくに相馬七万票の票田を八ツクとする斎藤邦吉氏のトップは不動といわれるので残る二つの椅子を木村守江、武藤武雄、松井政吉の三氏で争うということになろうというのが大方の見方である。漁沼事件をケイ機に、松井株は上り気味というから、自民党が共食いをするところあと五日、今明日中には各代議士や後援会幹部などの話し合いで候補者調整が行われるが、現在の状勢では自民二、革新一、という大勢は崩れそうにもない。公示まで余す

（第三種郵便物認可）定価一カ月100円・一部5円



読書感想文入選作品
「謡曲物語」を読んで

平一小　山田倫子

「謡曲物語」という本をよんでいると、遠い昔のお話しが出て来ました。幼ない頃から謡の話に聞き、絵本でしたしんできた源氏の源の物語のことでした。私のものかたすみにわすれられず、残っていた物語の二つずつが、思い出の記憶をよびもどしながらも一度よんでみたくなり、手にした本だったのです。

源氏の水にはふしぎな力があってこれを口にすれば心もすがすがしく休のつかれもわすれ、長生きするなどという話は、科学の時代に生きる私たちにとっては とても信じられないこっけいな話のように思いました。

しかしそのようなりくつの上に立ってこの物語をみたらはかげた話になってしまいます。私は遠いむかしからこの物語りが多くの人々に愛され、したしまれてきたことをもう一度考えなおしてみました。時代がかわり人の考えがかわっても、よい人の心にうつたえる何かがあるではないでしょうか。五年生の時によんだ外国童話にもこれにたような話がありました。キリストのするふう酒になつて人々に酒をのんだ時と同じような気持になったのではないでしょうか

源氏の老人もまたこのこのつたむすこの行いにたえただの水ではあってもまさしお酒のようなふしぎな力をもつ液のように感じられたのではないでしょうか。相手に親切にする心、相手を信ずる心を人々にもたせるためにこのような物語が生まれたのだろうと思います。私たちはともすれば疑い深くなったり、小さな親切にふりむきもしないでいることがあります。また日常の行動にも、やはよいのだろうというようなことが児受けられるのですが、小さな とでありつても真心のこもった仕事であれば、きっと人々の心を動かすのではないでしょうか。

父親に対するむすこの真心、子供を信じて生きる老人の心を思うとき、たとえ二人の生活は貧しくてもきっと心豊かな生活を送つたにちがいありません。ほんの童話にすぎないと思っていたこの物語りも、よく味わいながらよむと大へんむずかしい考えや人と対する作者の深いねがいがこめられているのにおどろくのでした。

▽……△

（写真は賑わった展示会）

優良作品を展示
平三小で秋の写生作品

平第三小学校で催される十八日金校児童一千四百三十五人で秋の校外写生会を行なつたが、うち三百十二点の優秀作品を同校講堂に展示は兄弟らが参観した。この夏同倍が秋の風景をキヤツチした作品は二一日には父兄らが参観した。この夏同倍が秋の風景をキヤツチした作品は

は大人も顔負けする絵もあり父兄から〝良く秋の風景を現わしている〟と好評を博した。

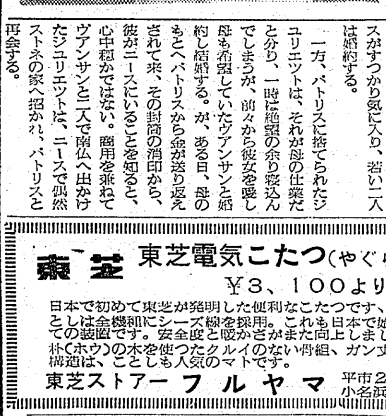
またこの作品のうち各学級（二十九学級）一組の作品と個人作品を県展に出品することになっている。一方、優秀作品は商形校長から金賞、銀賞の賞をつけられ、県展に出品されない作品は児童らに渡され、それぞれ自宅にはり お父さん、お母さんに鑑賞してもらうことになっている

小野氏らを表彰
磐城局、電信記念日に

磐城電報電話局では逓信記念日（植田小野町字内）

磐城電報電話局では逓信記念日（植田小野町字内）

殺したいほど好き
フランス映画の新魅力



孝子愚庵伝記

白い眉（まゆ）

37

須藤春峰　作
吉田富美　画

正岡子規

（二）

二、三百たってやって来たのは十五、六才の少年。着衣一枚に木綿の兵児帯、いかにも田舎からポツと出たての書生っぽであったが何処かに無頓着な様子があって「し、同じく肺病で苦しむ母親となうし」といってかつ南は自分の男を紹介してくれた。こうして子規はかつ南の大きな援助をうけて次第に大成するのであるが、このかつ南と親交ある天田五郎（後の愚庵）とは、その翌年じかつ南の家で初対面し、その後は子規の気質を愛し、

御婚礼のおふとんは……

綿夏掛	一組	4、850円	より
綿夏掛	一組	6、800円	よりよりよりよ